

のり海況速報 第8報 (22-8)

平成23年1月14日発行
千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 (1/11: 東京湾全域)
関東・東海海況速報 (1/11-13), 東京湾口海況図(1/11-13)

【水温・塩分の状況】

内湾から内房北部海域の表面水温(図1,2)は, 前報(12月20-21日)よりさらに2~3℃低下し, ほぼ10~14℃台になっています。

塩分はほぼ全域で30~34台前半となっています。

一方, 黒潮は12月下旬ごろから接岸傾向が続いています。

このため, これに伴う暖水が相模灘・東京湾口に向かって弱いながらも波及していたようですが, ここにきて, 金谷・久里浜間の水温が一昨日(12日)からさらに3℃上昇し, 水温17℃台の水塊が流入してきましたので, この動きには十分な注意が必要です。

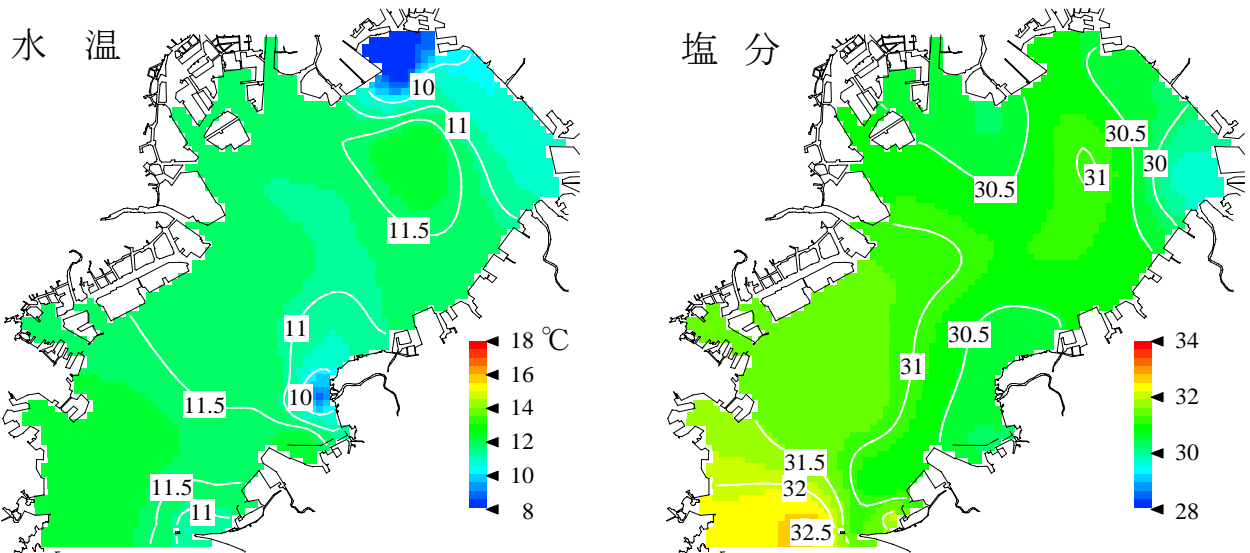


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾 : 平成23年1月11日)

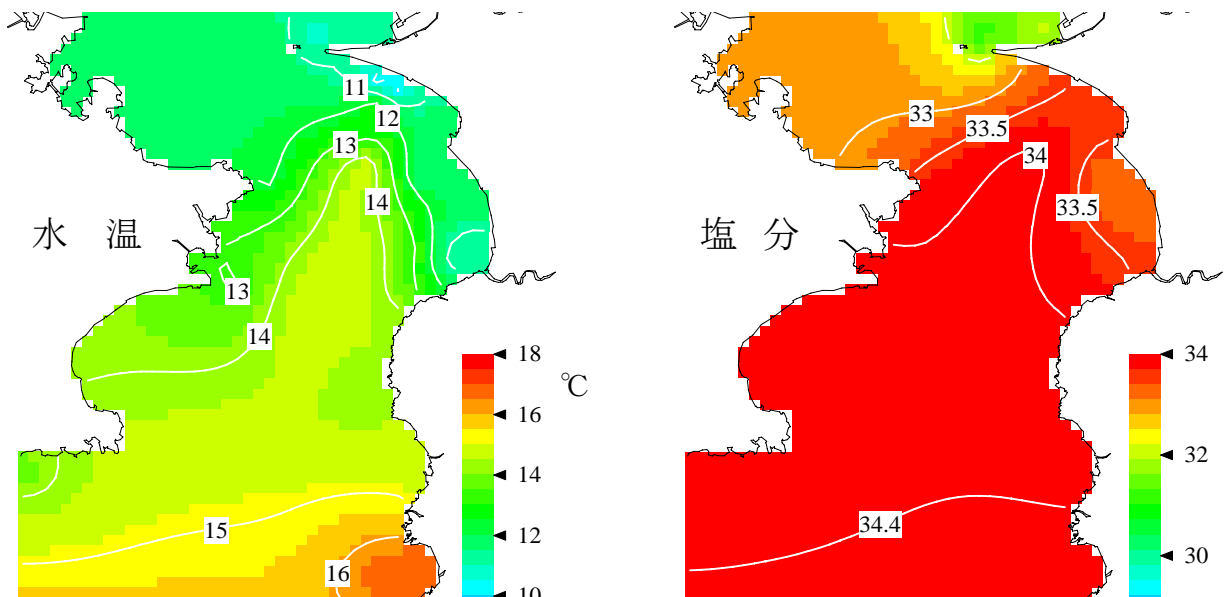


図2 表層の水温・塩分分布 (内房北部海域 : 平成23年1月11日)

【赤潮・栄養塩の状況】

赤潮は内湾中央から北部海域で発生し、千葉北部地区のノリ漁場周辺ではpH8.5、透明度1 m台を示し、水色も褐色を呈する程のやや濃い赤潮状態でした。

優占種はケイ藻のスケルトネマと渦鞭毛藻のアカシオ サングイネアで、その他に、ケイ藻のキートケロス、タラシオシラがみられていました。

表層の栄養塩(図3,4)は、リン酸態リンが千葉北部地区及び盤洲周辺でノリの色落ち濃度(10 $\mu\text{g}/\ell$ 以下)を下回ってきましましたので、今後の動向には注意が必要と思われます。

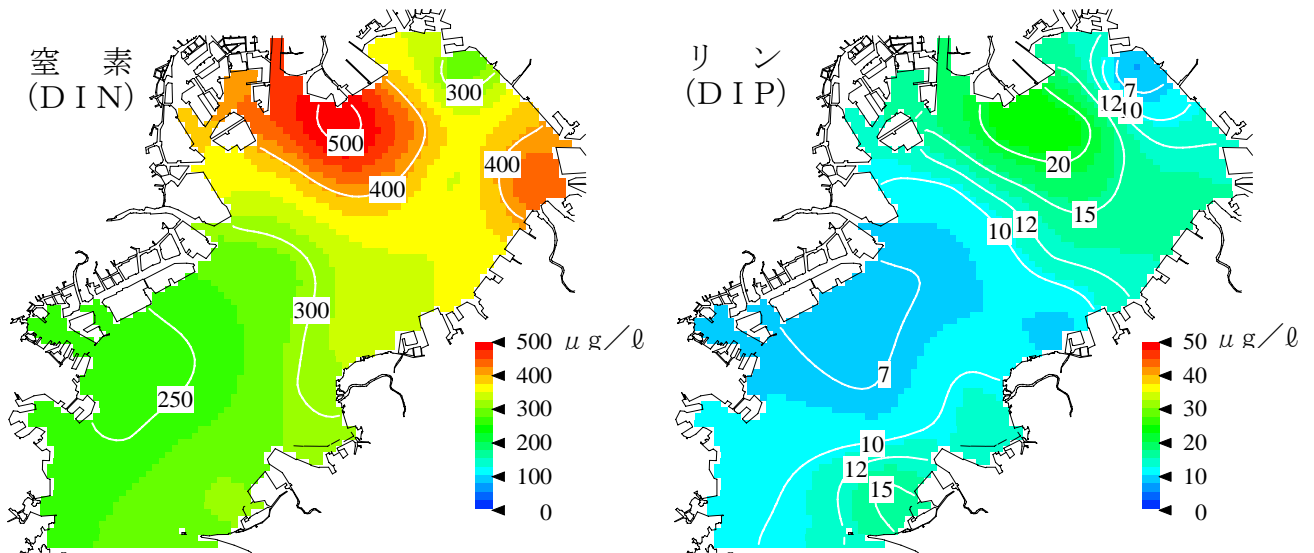


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾 : 平成23年1月11日)

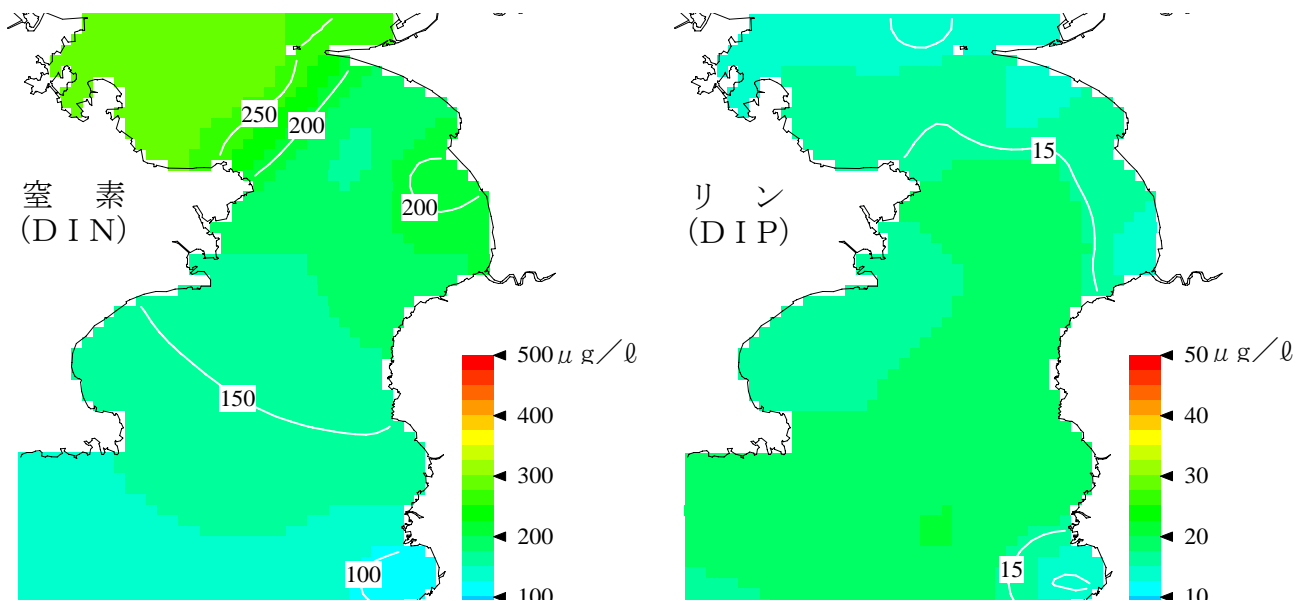


図4 表層の栄養塩濃度の分布 (内房北部海域 : 平成23年1月11日)